

## 巻頭言「新大学の本格稼働にあたって」

鈴木 滋彦（静岡県立農林環境専門職大学学長）

新大学が開学して3年が経ちました。将来の農林業を支える人材育成を目指して、令和2年4月、静岡県立農林環境専門職大学（Shizuoka Professional University of Agriculture）と同短期大学部（Shizuoka Professional University Junior College of Agriculture）が開学しました。専門職大学は「高度な実践力」と「豊かな創造力」を養うことを目的として制度化された新しいタイプの大学で、令和4年度末の時点で18大学があり、令和5年度には合計22大学となりました。その中にあって、本学は全国初の農林業系の公立大学であることが特徴の一つです。栽培技術、生産技術に加えて加工・流通・販売と経営の分かる人材の育成が使命であり、あわせて、農山村地域の環境や文化伝統を守り、地域を支えるリーダーを育てることを目標としています。

専門職大学の英名は Professional University ですが、海外の大学関係者と専門職教育を話題にするとき Vocational Study と説明することがあります。Vocational とは、すなわち職業教育です。「高度な実践力」と「豊かな創造力」は文科省の謳い文句であり、専門職大学の教育目標を上手く表していると思います。しかし、筆者はこれを敢えて「大学で行う職業教育」と読み替えています。大学で Vocational Education をどのように行っていくたらよいか専門職大学に課せられた宿題であると認識しています。では何故大学名に Professional を使うのか。

おそらくそれは、職業教育の認知度が低いこと、あるいは、職業教育を大学教育よりも低く見る傾向が国内にあることを気にしているのではないかと感じています。したがって、海外向けには Vocational を使い、国内向けには Professional を使うのではないかと。

開学して3年が経ちました。コロナ禍という霧で視界不十分ではありましたが、飛行機は離陸に成功し、只今、乗客を満員にして上昇をしています。高いレベルでの安定飛行を目指してさらに高度を上げようとしているところです。高等教育、特に大学教育における職業教育の価値を高めるためのフライトでもあります。

昨年度も同様の言を述べました。紀要は、大学にあっては「教育と研究」の両方を結びつける必須のアイテムであり、実践教育の実績を記録として残すことは専門職大学の責務であるとの思いを強く持っています。新たに始まった臨地実務実習などは学術的にも未知の分野と言えるかもしれませぬ。本紀要には、新規性の高い原著論文の投稿の場となることを求めつつ、専門職大学に固有の教育活動を学術的な著作として記録する場となることを期待しています。